

地 球 温 暖 化 対 策 実 施 状 況 書

1 地球温暖化対策事業者の概要

地球温暖化対策事業者 （届出者）の名称	日本碍子株式会社
地球温暖化対策事業者 （届出者）の住所	名古屋市瑞穂区須田町2番56号
工場等の名称	名古屋事業所
工場等の所在地	名古屋市瑞穂区須田町2番56号
業種	製造業
業務部門における 建築物の主たる用途	工場
建築物の所有形態	自社ビル等（自ら所有し自ら使用している建築物）
事業の概要	産業用セラミック製品、電力関連機器の製造販売
計画期間	令和4年4月1日 ～ 令和7年3月31日

2 地球温暖化対策実施状況書の公表方法等

公表期間	令和6年7月26日 ～ 令和6年10月24日		
公表方法	○	揭示 閲覧	（場所） 日本碍子株式会社 名古屋事業所 管理棟
		ホーム ページ	（HPアドレス）
		冊子	（冊子名・ 入手方法）
		その他	（その他詳細）
公表に係る問合せ先	052-872-7597		

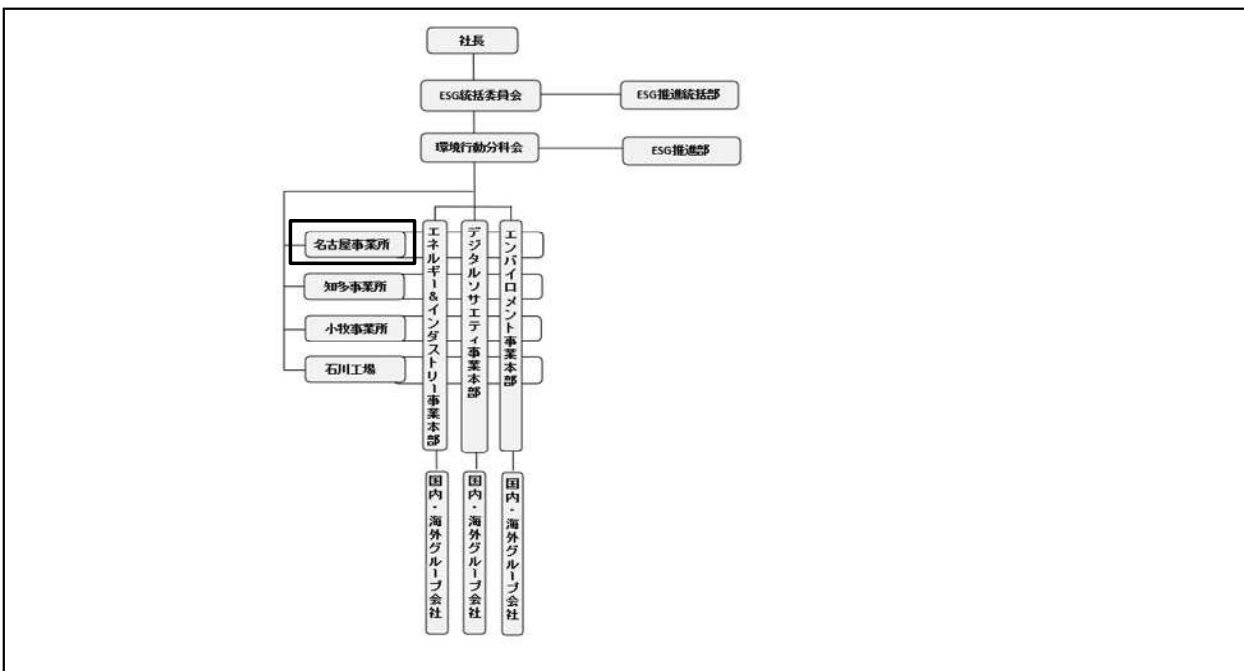
3 地球温暖化対策の推進に関する方針及び推進体制

(1) 地球温暖化対策の推進に関する方針

日本ガイシ株式会社は、NGKグループ環境方針に基づき、環境ビジョンの実現に向け、事業活動に伴う環境負荷を低減し、地球環境の保全に貢献します。

1. コンプライアンスを優先し、環境法令等の規制および組織が同意したその他の要求事項を順守するとともに、環境汚染の予防および環境保全のレベルアップを推進します。
2. カーボンニュートラルの取り組みとして、生産活動およびバリューチェーンで発生するCO₂の削減を推進します。
3. 循環型社会への取り組みとして、生産活動に伴う廃棄物（有価物含む）の削減と資源循環・水資源リスク・有害物質リスクの管理と対応を推進します。
4. 自然との共生への取り組みとして、生物多様性保全を推進します。
5. 環境社会貢献として、環境貢献製品・サービスの開発普及とCSR調達を推進します。
6. 環境コミュニケーションとして、地域社会への貢献と従業員の環境意識の向上を推進します。
7. 環境パフォーマンスを向上させるため、環境マネジメントシステムを継続的に改善します。

(2) 地球温暖化対策の推進体制



4 温室効果ガスの排出の状況

計画期間 2 年度目（令和 5 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		34,393	t-CO ₂
（温室効果ガス換算）	②非エネルギー起源二酸化炭素（③を除く。）		t-CO ₂
	③廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	④メタン		t-CO ₂
	⑤一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑥ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑧六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑨三ふっ化窒素		t-CO ₂
	⑩エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO ₂
温室効果ガス総排出量（①～⑩合計）		34,393	t-CO ₂

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標の達成状況

（1）温室効果ガス排出量の抑制目標の達成状況

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	総排出量
------------------	------

項 目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度			
温室効果ガス総排出量	37,754	t-CO ₂	36,622	t-CO ₂	34,571	t-CO ₂	34,393	t-CO ₂		t-CO ₂
削減率（対基準年度）			3.0	%	8.4	%	8.9	%		%
温室効果ガスみなし総排出量					33,813	t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂
削減率（対基準年度）					10.4	%		%		%

項 目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度			
原単位あたりの排出量										
削減率（対基準年度）				%		%		%		%
原単位あたりのみなし排出量										
削減率（対基準年度）						%		%		%

（2）進捗状況に対する自己評価（目標の達成／非達成の理由）

工場や研究所において各種の温室効果ガス削減対策を進めてきた効果や、昨年度より継続して行っている事務棟の空調管理が定着したこと、また、設置可能な場所への太陽光発電設備の増設などにより目標を達成した。
--

備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。

備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。

備考3 原単位あたりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量あたりの温室効果ガス排出量をいいます。

備考4 温室効果ガスみなし総排出量とは、温室効果ガス総排出量に対し、クレジット等の環境価値に相当するもの及び再生可能エネルギー等の利用による温室効果ガスの削減量等を調整したものをいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置の実施状況

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置の実施状況

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標	取組の実施状況
一般管理／エネルギー使用量等の記録及び管理	・エネルギー使用量の把握・計測・記録・分析		・各部門にてエネルギー削減目標を設定し、半期に1回環境安全統括部にてフォロー
工場等の製造工程における対策	・製造プロセスの見直し・改善、高効率設備の導入により省エネルギー化を図る ・ユーティリティ設備の運転方法見直し・高効率設備への更新等により省エネ化を図る		・焼成炉への製品詰め効率アップ ・コンプレッサー更新及び運転の台数制御による効率化
省エネルギーの推進／冷暖房	・熱源機器の省エネルギー型への順次切替 ・夜間、休日中の空調設備の運転停止 ・中間期の熱源機器の運転停止 ・冷房温度28℃を徹底する		・空調設備の高効率型への更新 ・夏季の冷房温度28℃を実施
省エネルギーの推進／照明	・高効率型照明（LED）への順次切替 ・昼休み時間及び退社時の勤務エリア消灯、トイレ、休憩所、会議室、更衣室等不使用時消灯の徹底		・本社ビル他の一般蛍光灯をLED蛍光灯に取替 ・共用スペース（ロビー、エレベーターホール、廊下、外構等）の照明の消灯、間引きを実施
省エネルギーの推進／その他	・パソコンはスクリーンセーバーを解除し、省エネモードに設定する ・コピー機は退社時にスイッチを遮断する ・至近階はエレベータを使用せず、階段を使用する ・夏季軽装の奨励		・パソコンのモニター輝度を半減 ・至近階移動（2up, 3down）時の階段使用を実施 ・夏季軽装（ノーネクタイ、ノー上着）の奨励
ハイドロフルオロカーボン等の排出抑制	・業務用冷凍空調機器の簡易点検、定期点検の実施及び点検記録の保管		・業務用冷凍空調機器点検状況の四半期に1回のフォロー

(2) 再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用の状況

ア 計画期間 2 年度目（令和 5 年度）における利用の状況

導入年度	設備等の種類	概要（規模、性能、発生エネルギー量等）
2019年度	太陽光発電設備	設備能力317kW（増設）、発電量は287,761kWh

イ 上記のうち、他のものに供給した電力及び熱

区 分	再生可能エネルギーの種類	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
電 力		t-CO ₂
熱		t-CO ₂

(3) 環境価値（クレジット等）の活用状況

計画期間 2 年度目（令和 5 年度）におけるクレジット等の利用

クレジット等の種類	創出地	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂

(4) みなしの排出量の算定に利用した温室効果ガス換算量（みなしの削減量）の合計

t-CO ₂

(5) その他の地球温暖化対策に係る措置の実施状況

・ e c o 検定の取得支援を実施し21人が合格した。 ・ 緑のカーテン、キャンドルナイトなどの環境イベントを企画し、また、イベント参加を含めた従業員の環境活動にエコポイント付与を実施している。
--

(6) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組の実施状況

・ 環境月間に絡み、従業員より E C O 提案の募集を行い、また、従業員に e c o 検定の受験を呼びかけた。
